

# ねりまの文化財

## 登録文化財 15件に！

練馬区教育委員会  
社会教育課  
(文化財保護係)  
☎993-1111 内線2766  
〒176練馬区豊玉北6-12

活躍する

### 文化財保護推進員

昭和63年2月に、次の方々を「練馬区文化財保護推進員」に委嘱しました。

区内各所にある文化財の現況を把握し、また文化財保護に関する普及啓発活動をすすめていただいています。

五十音順・敬称略(かっこ

内は、主な担当地域)

井口 敏 (石神井台・上石神井・関町

立野町)

伊藤 経一 (小竹・旭丘・豊玉・中村)

瓜生 清 (旭町・土支田・大泉町・三

原台・石神井町・下石神井)

加藤 喜平 (大泉学園町・西大泉・南大

泉)

加藤 佐平 (田柄・春日町・高松・光が

丘)

北沢 邦彦 (東大泉・他)

桑島 新一 (向山・貫井・谷原・高野台・

富士見台・南田中)

松本 龍雄 (北町・錦・平和台・氷川台・

羽沢・栄町・桜台・練馬・

早宮)

区では、昭和61年10月の、文化財保護

条例施行以来、2回にわたり、15件の文

化財を、登録文化財としてきました。

昭和62年度は、昭和63年3月28日付

で次の9件を登録しました。

#### △有形文化財▽

◎服部半蔵奉納の仁王像(高松三一一九

―八 御嶽神社境内)

◎豊島氏奉納の石燈籠(石神井台一一

八―二四 氷川神社境内)

◎石幢七面六観音勢至(せきどうしちめ

んろくかんのんせいし)道しるべ(中

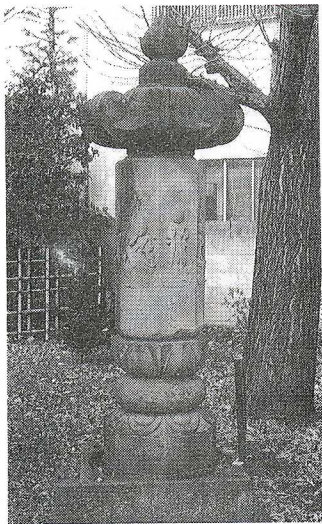
村三一―一 良弁塚内)―写真―

◎双蝶々曲輪日記図絵馬(ふたつちよう

ちようくるわにつきずえま。高野台三

―一〇―三 長命寺)

◎牛若丸・弁慶図絵馬(長命寺)



道しるべ

#### △有形民俗文化財▽

◎北町聖観音座像(北町二―三八―五

北町観音堂)

◎弥陀三尊来迎画像板碑(みださんぞん

らいごうがぞういたび。石神井台一一

一五―六 三宝寺)

練馬区の文化財保護にかかわってきたものの一人として、文化財保護の現状と、これからについて考えてみます。

急激な都市化の中で、区民の間に心の豊かさが求められ、郷土の歴史や文化財に対する関心が高まってきています。

左に記した58・59両年度に行われた文化財総合調査で、区内に次のような文化財のあることが確認されました。

有形文化財 一一四八件  
無形文化財 一件

## 文化財保護の 歩みと、これから

に保護の手が及ぶのは、はたしていつのことでしょうか。

とかく文化財の登録や指定には優品主義がとられがちです。お寺や神社や、素封家にある珍しくて、立派な文化財が優先されるのです。しかしそうした品は大切に保護管理されている場合が多いものです。むしろ路傍に佇む身寄りのないお地蔵さんや庚申塔にこそ保護の目を注がねばなりません。それには区民ひとりひとりの文化財に対するあたたかい理解が

無形民俗文化財 一六件  
有形民俗文化財 一件

史跡など 二四件  
合計 一一九〇件

この調査をふまえて区では文化財保護条例の検討が進められ、制定、施行の運びとなりました。以来、毎年数件ずつ条例による登録がなされています。条例では登録された文化財の中から、さらに重要なものを指定する、ということになっています。この膨大な数の文化財すべて

必要です。そのパイ役が文化財保護推進員の仕事だと思っています。

「鶴の舞」で知られる氷川神社（氷川台）に、十数年前まで「田遊び」という行事がありました。苗代作りから刈り入れまでの農作業を、ユーモラスな能の所作で行う特有の伝統芸能です。後継者や費用の問題で今は絶えています。これも早急に復活させたい練馬の貴重な無形民俗文化財です。

地名は大地にしるされた文化遺産だとく

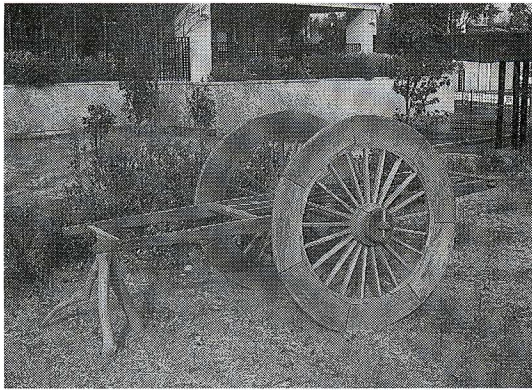
### おんたけ 御嶽神社の火渡り神事



ねりま百景に選ばれている御嶽神社（中村三の八）で、五月十八日午後一時から大祭が行われた。東京では数少ない神事で、神職四人による鎮火式（火渡り）の儀があった。そのあと一般参詣者も参加、家内安全や健康を祈願した。

（文・写真とも 伊藤経一 推進委員）





だいばちぐるま 全長278.5cm 車輪直径126cm  
大八車 荷台幅65cm 荷台高 80cm

(郷土資料室蔵)

江戸を中心に発達した荷物運送用の二輪車で、商品や木材などの運搬は勿論、農作物の出荷、下肥運びにも利用された。天秤棒だと一度に二樽しか運べない漬物樽でもこれを使うと一台で六〜八樽も運べるので、その製造台数は急増し元禄時代には二千二百台以上の車が使われていた。練馬でも大根の出荷には大いに利用された。この写真の大八車は明治五年頃「入間県免許」の焼印をもらったもので極めて珍らしいものである。車輪や車軸に鉄を全く使っていないのが特色である。

いわれます。ふるさと「ねりま」のころは、その土地の歴史を育んだ地名を知ることでも一層深まります。区内の由緒ある地名が消えつつあります。今のうちにどうにかしないと、将来まったく判らなくなる心配があります。古い地名を発掘し、記録することも文化財保護の一つの役目だと思えます。

\* \* \* \* \*

練馬区の文化財保護の歩みを年表にしてみますと、次のようになります。(年は昭和)

41年2月 「練馬区の文化財」第一集発行、以後毎年発行

42年7月 区制20周年記念郷土史展(主催)

催同実行委員会・後援教育委員会)

44年3月 郷土史シリーズ「ふじ山道」

発行、以後毎年シリーズ発行

45年12月 郷土資料室新設、以後毎年特別展示、資料集等刊行

47年2月 「練馬の史跡案内」発行(担当社会教育課)

以後毎年発行

48年4月 社会教育課に文化財保護係(新設)

49〜50年 文化財総合調査実施

51年3月 右の調査にもとづき「練馬区文化財総合目録」発行

52年10月 「練馬区基本構想」策定、文化遺産の保存活用をはかることとする

53〜54年 文化財総合調査実施(地域別調査)

54年6月 練馬区遺跡調査会発足

55年3月 総合調査にもとづき「練馬区文化財目録」発行

58〜60年 文化財総合調査実施(種別調査)

60年4月 練馬区文化財保護条例検討委員会発足

61年3月 「練馬区文化財保護条例」制定、同年10月施行

61年12月 文化財保護審議会発足

62年3月 登録文化財6件登録

63年2月 練馬区文化財保護推進員制度発足

63年3月 登録文化財9件登録(計15件)(文化財保護推進員 桑島新一)



# 新刊書を頒布していただきます

◎「教育の先駆者たち」(150円)

幕末の寺子屋の師匠たちは、多くが明治初期の公・私立小学校の教員となりました。歴史のある区内小学校のルーツを解き明かすとともに、その頃の練馬の教育に尽した人々を紹介しています。

◎「練馬の石造物―神社篇―」

(1千200円)

区内の神社にある石造物(鳥居・狛犬灯籠・水盤)を説明するとともに、写真を多数収録。石造物から先人の労苦がしのばれ、刻まれた銘文から生活の一端を読みとることができます。

◎葛原(くずはら)遺跡B地点調査報告書(2千400円)

◎「武蔵関遺跡調査報告書」(1千200円)  
いずれも、昭和61年度に実施した、先土器・縄文時代の遺跡発掘調査の結果をまとめたものです。

◎この他に既刊書で頒布中のものが、25点あります。また、品切れのものは、区内図書館・情報公開室でご覧になれます。

▽頒布窓口○教育委員会社会教育課・文化財保護係(区役所西館2階)  
○郷土資料室(石神井図書館内)  
○情報公開室(旧練馬図書館)

## 文化財日誌

〈4月〉

1日 人事発令(学芸員・郷土資料調査員新任)

11日 埋蔵文化財試掘(貫井二丁目)

27日 立会(石神井台二丁目)

〃 巡見(扇山遺跡)

28日 三宝寺池・石神井池付近の景観調査のため、気球による空中撮影

〈5月〉

12日 池淵遺跡発掘調査(宅地造)

成にともなう事前の発掘調査)

17日 第一回文化財保護推進委員会

22日 春の史跡散歩(豊玉・中村コース)

大鳥神社、正覚院・氷川神社・富士

稲荷・学田公園・南蔵院・八幡神社

御嶽神社・良弁塚。講師は、桑島新一、

松本龍雄の両氏。参加86名。

(秋は、関町方面を予定しています。

区報に掲載して、募集。10月末頃)

〈6月〉

2日 埋蔵文化財実踏(大泉町二丁目)

14日 職員研修

# は

はじめ、お届けする「ねりまの文化財」です。練馬区の文化財保護行政も、文化財保護推進員の委嘱、学芸員の採用など、ようやく形を整えつつあります。

石神井にある郷土資料室も、先生方が増えました。また、「練馬の年中行事」というピラを、5月から配っています。希望の方は、直接郷土資料室へ。(電話 九九六―〇五六三)

埋蔵文化財(遺跡)の調査が急ピッチで増加しています。保護と開発は、どの分野でも両立が難しいものです。

17日 文化財講座「身近にある文化財の見方」稲荷山図書館・中里富士塚・

八坂神社・清水山憩いの森。講師は、

北沢邦彦氏と、自然保護運動をさ

ている澤開茂宣氏。参加19名。

20日 埋蔵文化財立会(溜淵遺跡)

28日 埋蔵文化財立会(石神井台二丁目)

〈7月〉

1日 埋蔵文化財試掘(早宮一丁目)

7日 文化財保護審議会開催